

防災通信 No.15

この通信はみなさんの防災意識を高めていただき、少しでも被害を小さく出来ることを目的に作成しています。ご意見等ありましたらお寄せください。

(グリーンテラス本郷台自治会)

大きな地震後のトイレ対応！

「大きな地震が発生した直後はトイレに水を流さない」が原則

大きな地震によって下水管や排水管などの配管が損傷している可能性があります。もし損傷している状態で水を流すと、公共下水道へ上手く流れることができなくなることから、建物内に水が逆流することがあります。また、マンションでは他の階のトイレにも逆流し、詰まりや漏水が起こることが想定されています。

東日本大震災では、配管・排水管の損傷に気づかずに上層階の住民がトイレを使用し汚水を流したことで、下層階で逆流し漏れ出して大きな被害になったケースが多数発生しました。

配管・排水管の異常がないか確認後の使用が望ましいようですが、実際には難しい問題ですね！すぐに業者が来てくれるとは考え難いことです。不安に思ったら携帯トイレを利用しましょう。

〈携帯トイレ〉

その名の通り持ち運べるトイレです。便と尿を入れる袋で、水の流れなくなった便器に取り付けて、その中に排泄します。「袋の中に吸収シートが入ってるタイプ」と「使用前や後に凝固剤を入れるタイプ」があります。便と尿はほとんどが水分なので、それを吸収もしくは凝固して安定化することができます。備えとしては、一人が1日5回（災害時なので少なめ）とすると、最低でも7日間は必要だと思しますので、35回となります。固めた後は密閉して可燃ごみとして処理することができます。



〈配管・排水管に異常がない場合〉

震災によりライフラインが機能停止した場合であっても、下水道管等が破損していなければ、水を確保することにより既存の水洗トイレや下水道の機能は使用可能です。

ここでトイレ使用方法について注意点がありますので紹介します。

一回のトイレ洗浄に使用する水量は、メーカーや機種、節水タイプであるかどうかなどにより異なりますが、一般的な便器の場合、大レバー使用時は8ℓ程度、小レバー使用時は6ℓ程度の水が流れます。同じ量の水をバケツに用意し短時間に一気に便器の中へ水を流し込んでください。

※ただし、この水量では便器の汚物を排水する事ができても、排水管の途中に汚物が停滞する事がありますので2～3回に一度は、バケツ2杯程度の水を流してください。

〈ティッシュペーパーとトイレットペーパー〉

ティッシュペーパーは、水に濡れても破れにくくする特別な材料をパルプに混ぜ、パルプ繊維を科学的に結合させ、濡れても破れにくくしています。トイレットペーパーは、そういった材料は使わず、水に入れて混ぜるとほぐれ、スムーズに流せるようにしています。

〈大量の生活用水〉

トイレだけでも大量の水が必要になります。そこでよく考える事ですが、風呂水の保存があります。台風接近によるライフライン停止対策では短期の保管は有効ですが、日常での保存は、カビの発生、細菌の繁殖という問題がありますのでお勧めできません。また省庁のHPでは、「小さい子どもがいる家庭では浴槽に水をためない」と明記されています。

※大きな地震災害があった後は、下水道や排水管の確認がとれるまで、携帯トイレを利用しましょう。